

各 位

上場会社名	ザインエレクトロニクス株式会社
代表者	代表取締役社長 飯塚哲哉
(コード番号)	6769)
問合せ先責任者	取締役経営企画部長 高田康裕
(TEL)	03-3270-0666)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,688	536	561	326	2,684.84
今回発表予想(B)	5,795	763	788	462	3,801.28
増減額(B-A)	107	227	227	136	
増減率(%)	1.9	42.4	40.5	41.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,589	412	304	183	1,503.01

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回発表予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	—	—	—	—	—

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,688	563	588	353	2,899.00
今回発表予想(B)	5,795	790	815	489	4,015.44
増減額(B-A)	107	227	227	136	
増減率(%)	1.9	40.3	38.6	38.5	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,589	416	308	187	1,535.93

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	—	—	—	—	—
今回発表予想(B)	—	—	—	—	—
増減額(B-A)	—	—	—	—	—
増減率(%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	—	—	—	—	—

修正の理由

当社は2007年から当期に至る中期方針「Act3-3-3」を掲げ、目標を変えず、その達成に向けた不断の取組を行っています。2009年におけるこれら新製品関連の売上総利益の合計を45億円の水準へと段階的に引き上げ、利益力を向上することを狙っています。

当社が関連するテレビ事業においては、厳しい価格低下と高付加価値製品へのシフトが生じています。第2四半期累計期間においては、厳しい低価格化にもかかわらず想定を上回る出荷増加となる見込みであり、また、原価低減策が奏効することが見込まれることから、業績予想を上方修正します。フルHDテレビや倍速テレビに対応した表示制御用LSIを始めと

する研究開発品ビジネスにおいては、第1四半期においても計画を上回る堅調な結果となりました。利益率の低いIP(回路設計資産)内蔵商品ビジネスを戦略的に減少させながら、ライセンスビジネス他を継続しています。当社では、フルHD対応製品の積極拡販、当期における新製品の市場投入・拡販、さらに当期に事業譲受を完了した画像処理用LSI事業の積極展開を通じて「Act3-3-3」の達成を図る方針です。

これらにより、当第2四半期累計期間の連結売上高は57億95百万円(前回予想比1.9%増、前年同期比26.3%増)、連結売上総利益は25億24百万円(前年同期比36.1%増)となり、2002年新規株式公開後の上期の売上総利益として最高益となる見込みです。

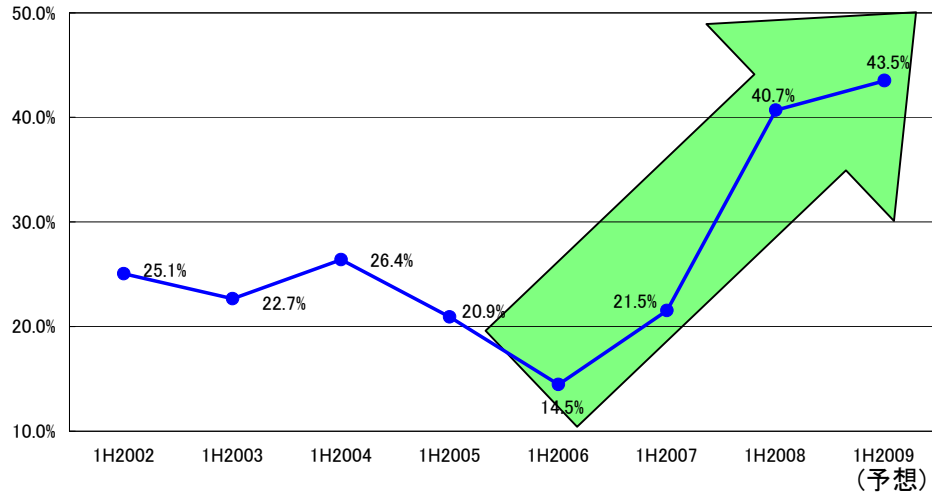
また、当期においては、「Act3-3-3」の実現に向けて研究開発プロジェクトを厳選したうえで、通期の研究開発費を22億69百万円(前期比23.9%増)支出する計画としています。フルHDテレビや倍速テレビ向けの研究開発などを実施しています。テレビのトータルコストの改善と画質向上に寄与する当社独自技術V-by-One(R)HSの開発などを行っています。

また、当社は第1四半期において、ウィンボンド・エレクトロニクス社から画像処理用LSI事業を取得し、ザイン・イメージング・テクノロジー株式会社を発足させました。携帯電話の高解像度デジタルカメラで使用する画像処理用LSI事業を積極的に展開し製品を拡販するとともに、5百万画素や8百万画素以上の高解像度に対応した画像処理を行うLSI技術の開発を進めています。

以上により、最新の市場環境に鑑み、第2四半期累計期間の業績見通しにつきまして、連結営業利益は、7億63百万円(前回予想比42.4%増、前年同期比85.3%増)、連結経常利益は7億88百万円(前回予想比40.5%増、前年同期比158.7%増)、連結当期純利益は4億62百万円(前回予想比41.6%増、前年同期比152.9%増)に修正いたしました。なお、通期においては、経済環境が激動しており引き続き厳しい状況が見込まれることから現時点においては業績予想を変更しません。

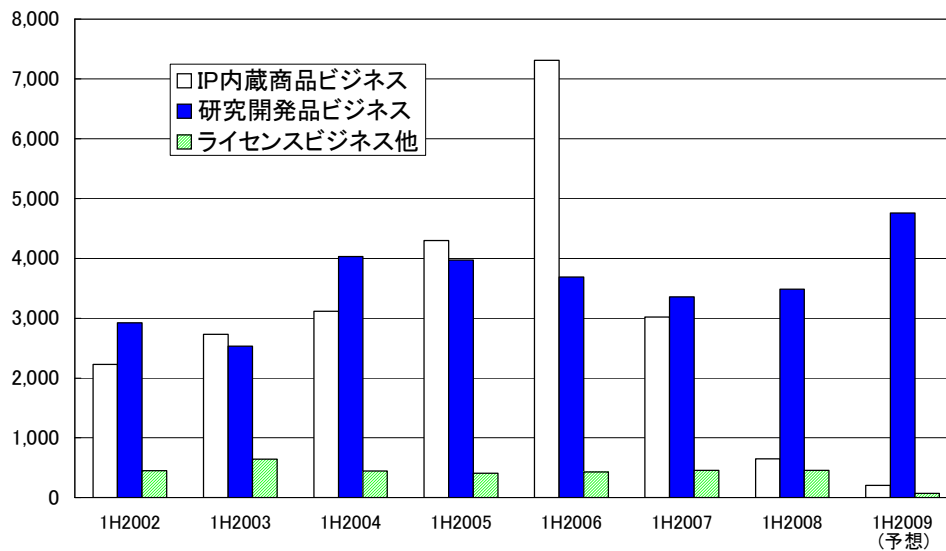
以上

中間期毎の売上総利益率の推移



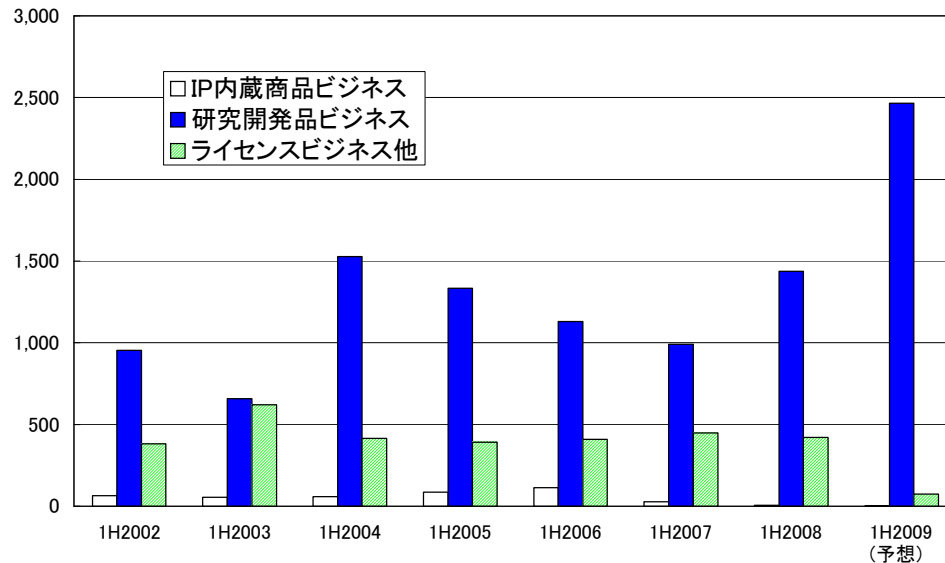
上期毎の売上高構成の推移

(百万円)



上期毎の売上総利益構成の推移

(百万円)



※2002年新規株式公開後、上期の売上総利益として最高益となる見込み